

ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

2018 Round.8 Okayama International Circuit



ST600
#71 Daiki Uehara

JP250
#71 Kiyoshi Akama

HONDA

HRC

BRIDGESTONE

MUSASHI

Arai

YAMAMOTO

NGK
SPARK PLUGS

eif

TGK

ACTIVE
Rev and Ride It!

RK
TAKASAGO CHAIN

SUNSTAR

KRS

SIGNET

■ Mistresa RT HARC-PRO. Media Information

2018 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第8戦 in 筑波
スーパーバイクレース in OKAYAMA

岡山県・岡山国際サーキット (1周 3.703km)

観客動員数：2,240人 (土曜日)



ST600 クラス
#71 上原大輝

マシン：Honda CBR600RR タイヤ：BRIDGESTONE
予選：9番手 (タイム：1分41秒887)
決勝：中止

MFJ CUP JP250 国際クラス
#71 赤間清

マシン：Honda CBR250RR タイヤ：DUNLOP
予選：28番手 (タイム：1分57秒090)
決勝：20位 (国際クラス8位)



昭和電機では全日本ロードレースをより一層盛り上げるべくチームやメーカー、クラスを越えて各クラスのゼッケンナンバーが「71」のライダーとチームを応援する71プロジェクトを発足いたしました。

71プロジェクトでは、応援ツアーの開催や公式プログラムへの広報記載、応援グッズの配布、ピットウォーク時のスタンプラリーなど、様々な企画を計画しております。各クラスで#71を付けたチーム・ライダーのご声援をよろしくお願いいたします！

<http://mistresa-71.com>



JSB1000
Team KAGAYAMA
#71 加賀山 就臣 選手

J-GP2
TONE RT SYNCEDGE4413
#71 三原 壮紫 選手

J-GP3
Team P.MU 7C MIKUNI
#71 小室 旭 選手

ST600
Mistresa RT HARC-PRO.
#71 上原 大輝 選手

JP250
Mistresa RT HARC-PRO.
#71 赤間 清 選手

ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

2018 Round.8 Okayama International Circuit

ST600 #71 Daiki Uehara JP250 #71 Kiyoshi Akama



Mistrésa RT

HARC-PRO

台風 24 号の接近のため決勝中止に JP250 はウエットレースで争われる



JP250 #71 Kiyoshi Akama

いよいよシーズン終盤に突入した全日本ロードレース選手権。シリーズ第 8 戦は、岡山県・岡山国際サーキットで開催された。MFJ CUP JP250 クラスも 6 月末の筑波ラウンド以来の開催となり、Mistrésa RT HARC-PRO. の赤間清にとって約 3 カ月振りの実戦となった。



レースウイーク初日となった金曜日は、青空が広がり見事な秋晴れとなったが、台風 24 号が接近しており、土日の開催が中止になる可能性がささやかれていた。

土曜日は天気予報で雨になることは分かっていたが、次戦以降を見据え上原の CBR600RR に新しいエキゾーストを入れ、ドライコンディションで走り始めた。パワーが出るが、特性が大きく違うために最初は戸惑っていた上原だったが、マシンセットを進めて行くと、2 本目では、1 分 35 秒 575 まで自己ベストを縮め、まずまずの手応えを得ていた。一方、赤間は、久しぶりの走行となっていたためマシンのフィーリングを確かめながらペースを上げて行った。



予報通り雨模様となった土曜日。まだ風は強くなかったが、時折強く降る雨のために J-GP2 クラスのセッションでは、赤旗が提示されが、ほぼタイムスケジュール通りに進んでいった。

赤間は、ウエットコンディションで、うまくフロントのフィーリングがつかめずにいたが、決勝レースで目標となるライダーについて行きポジションを上げ総合 20 位、国際クラスでは、8 位でチェッカーフラッグを受けた。



JP250 #71 Kiyoshi Akama

上原の走る ST600 クラスのセッションが始まる直前に、台風接近の影響のため、日曜日のレースを中止し、予選順位でハーフポイントが与えられることが発表される。レースは、ないが予選は走る、その順位でポイントがつくというライダーとしては、複雑な部分もあるが、攻めるしかない状況だった。ウエットコンディションは、比較的、上原が得意としているだけに、一つでも上位につけておきたいところだった。



事前テストでウエットのセットは、決まっていたこともあり、徐々にペースを上げるとヘビーウエットの中、タイムを更新して行く。セッション終盤に各ライダーは、タイムアップするが、上原は、少し

早めにベストタイムを出し、1 分 41 秒 621 で 9 番手とシングルでセッションを終了。6 ポイントを獲得し、暫定ランキング 12 位に浮上した。



ST600 #71 Daiki Uehara

■上原大輝コメント

「レースウイークから新しいエキゾーストを投入したのですが、パワーは出るようになったのですが特性が全く違い、戸惑ってしまいましたが、2 本目はよくなって自己ベストを出すことができましたが、まだまだですね。土曜日は、雨になることは分かっていたので最終戦鈴鹿を見据えた変更だったので、試すことができよかったです。雨の予選では、以前のタイプにエキゾーストを戻して、事前テストでもフィーリングがよかったセットで臨みました。決勝中止、予選順位でハーフポイントと発表されてからだったので、何とか前に行きたかったのですが、ここが今の実力だと受け止めて、さらに前進したいです」

■赤間清コメント

「ウエットコンディションは、どうしても開幕戦での転倒のイメージが払拭できず、予選は、全くうまく乗れませんでした。フロントブレーキのフィーリングがつかめず、フロントタイヤをうまく使えない状態なのは、分かっています。決勝では、後ろから追いついてきたライダーにうまくついて行くことができ、タイムも大幅に更新できたので、早いうちにタイムアップできればと反省しています。最終戦は、ドライでもウエットでも攻めていきます」



このリリースのお問い合わせは
昭和電機株式会社 営業推進部 sales@showadenki.co.jp